

鳴門教育大学大学院学校教育研究科 (教職大学院)

数学科教育コースの取り組み — 数学，数学教育学の双方から理論的・実践的に学ぶ —

鳴門教育大学 大学院では，内容学（数学）と教科教育学（数学教育学），双方の知見を深め，接続することを意図したカリキュラムが設定されています。

How（どうやって教えるか）は

What（何を教えるか）を前提とした営み。

そのため，まずは内容について数学・数学教育学双方から知見を深めつつ，その実現のためにどのようにすべきか，という構造で学習する。

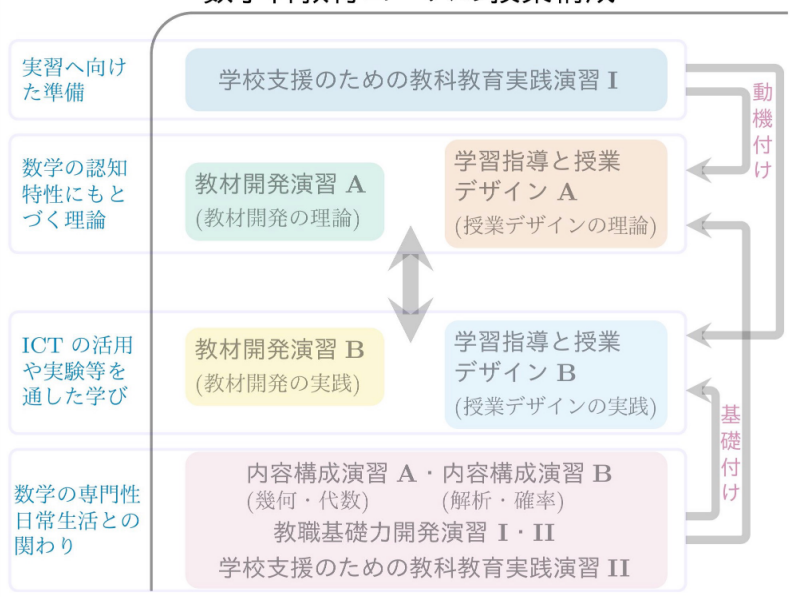


この狙いを実現するために，数学科教育コースでは

全ての授業を数学者＋数学教育学者で担当する

例えば，内容構成演習Aでは，子どものつまづきという教育現象を数学者の立場からも講義し，教材開発演習Aでは数学の概念について数学教育学者の立場からも講義している。

数学科教育コースの授業構成



・履修のモデルケース

「学校支援のための教科教育実践演習I」，「教職基礎力開発演習I」を1年生前期に履修し，研究と実習のための基礎を身につける。その上で，「内容構成演習A/B」，「教材開発演習A/B」，「学習指導と授業デザインA/B」を1年生後期で集中的に学ぶ。これにより，専門性を身につけた上で，2年生の実習・研究に臨むことが期待されている。なお，それぞれの授業のAとBの間に最初の教育実習があり，机上で学んだことを実地で感得するよう配慮されている。

2年生では「教職基礎力開発演習II」などで，学んだ内容をフォローしつつ深め，最終成果報告書へと結集させていく。